

## 第6回富良野地区定住自立圏共生ビジョン懇談会 議案顛末

日時：平成29年10月26日（木）  
午後5時55分～午後7時45分  
場所：富良野市役所 第三会議室

### 1. 開 会

（西野企画振興課長）

### 2. あいさつ

（若杉総務部長）

### 3. 委員紹介

（懇談会委員・オブザーバー・事務局自己紹介）

### 4. 座長及び副座長の選出

事務局腹案で座長が承認され、座長の指名により副座長が承認された。

- ・座 長～ 原 正明 委員
- ・副座長～ 丸山一敏 委員

（以降、原座長の進行、説明は事務局）

### 5. 議 題

（1）第5回懇談会での各委員からの意見に対する取組状況について【資料1】

事務局より説明。

（委員）

- ・外国人観光客の救急対応について、具体的な取組はあるのか。

（事務局）

- ・地域センター病院運営委員会の中で課題として出ており、11月16日に「医療従事者のための外国人受入対策講座」を市と医師会が協力して実施する。
- ・地域センター病院では平成28年度に291名の外国人を受け入れており、講座の実施に当たっては診療所における実態も調べながら、先進事例も確認し、医師会等と検討していきたい。

（委員）

- ・地域センター病院でも外国語が対応できる職員を1名雇用しているが、いなくなった時などの対応をどうしていくかの問題がある。
- ・これから中国人観光客が増えてくることも考えられるので、対応方法等を考えなくてはいけないのではないか。

（委員）

- ・地域センター病院への受入291名の外国人のうちアジア系が121名、約41%を占めている。今年の7、8月は、66%がアジア系の外国人となっている。
- ・病院にて問診票も英語等で書いてもらうようシートを使っているが、対応には苦慮し

ている。

- ・海外から旭川空港への直通便があり、冬のスキー観光もあるので、外国人観光客の医療受入体制については検討していかなくてはいけないのではないか。

(委員)

- ・外国人観光客のレンタカー利用も多いので、交通事故等も見受けられるので、対策等を市町村間で共有する必要があるのではないか。

(座長)

- ・富良野市や中富良野町で個別に「STOP」看板を設置してきた経緯がある。

(委員)

- ・外国人観光客の対応について、語学や文化の違いを学ぶセミナー参加対象をどこまで実施しているのか。

(事務局)

- ・富良野美瑛広域観光推進協議会が主体となるセミナーについては、沿線関係者が対象となる。

(座長)

- ・富良野地域人材開発センターでも過去に語学等のセミナーを開催していたが現在は実施していない。今後に向けて、観光に対するセミナーを実施するべきではないかという意見がでており、関係機関と協議していく予定である。

## (2) 富良野地区定住自立圏共生ビジョンの進行管理について【資料2】

事務局より説明。

(委員)

- ・資料2-2のP10の分類の根拠は何か。

(事務局)

- ・富良野地区営農推進協議会作成の資料に基づくものである。

(委員)

- ・地域高規格道路の富良野北道路はいつ完成するか。

(事務局)

- ・北海道開発局では完成年度を公表はしていない。

(委員)

- ・移住者の実績が分かれば教えてほしい。

(事務局)

- ・各町村の状況は把握していない。
- ・富良野市の場合は、移住相談窓口による把握は平成28年度で約20名である。

(委員)

- ・資料2-2のP3の政策分野Ⅲの内容が記載されていないのはなぜか。

(事務局)

- ・関連施策等が少ないため、内容は省いている。

(委員)

- ・富良野市における認定こども園への移行状況はどうなっているか。

(事務局)

- ・富良野市は認定こども園への移行は行っておらず、幼稚園及び保育所のままである。

### (3) 各委員からの意見

(委員)

- ・農業に対して各市町村で共通の課題等を抱えていると思うので、広域で行政やJAと一緒にあって取り組める場があると良いのではないかと。

(事務局)

- ・既存協議会等の活用も含めて検討していきたい。

(委員)

- ・本州等からの移住希望者に対して、除雪や雪降しなどをどう情報提供しているのか。想像するより大変ではない部分を伝えた方が良いのではないかと。

(事務局)

- ・実際に参加した北海道暮らしフェアで除雪や雪降しに関する相談があり、除雪体制がしっかりしており、想像するよりは大変ではない旨は伝えている。

(委員)

- ・農業も観光業も季節的に人材不足が課題となっており、ワーキングホリデー事業の活用など広域的な推進が必要ではないかと。

(委員)

- ・子どもたちが冬場でも遊べる施設を広域で取り組めると良いのではないかと。

(委員)

- ・各市町村の包括支援センターなど福祉に関わる分野において、利用者状況などの事例共有や意見交換できる場が圏域があると良いのではないかと。

(委員)

- ・現状のままの救急医療体制は維持することは困難であることを知っておいて欲しい。
- ・地域センター病院を新設した時は27人いた医師が、現在は21人であり、医師数は到底足りていない。
- ・地域の救急医療が担えなくなると、その地域は崩壊するといわれているので、地域における協力体制は重要である。

(委員)

- ・地域公共交通におけるJR問題について、地域に鉄道が無くなるとその地域が寂れていくので鉄道の維持は必要である。

(委員)

- ・教育は人材育成の原点である。読解力のスタートとしてブックスタート事業があり、上富良野町も取り組みが始まり、沿線すべての市町村で取り組まれるようになった。
- ・図書館を支えるボランティアが減っているので、広域的な取組の検討も必要ではないかと。

(委員)

- ・将来人口が減っており、中学校の団体部活動も構成できない学校も出てきており、子どもたちに与える影響は非常に大きい。

- ・外部から来るイベントに対し、沿線が協力し、広域で担える体制が必要ではないか。

(委員)

- ・成果指標において、医師の目標数が少ないと感じる。

(委員)

- ・外国語対応において、スマートフォンやタブレットなどが普及しているが使い勝手が悪い現状ではあるが、今後、技術革新により進んでいくことを望んでいる。

(委員)

- ・富良野駅は観光地としての特性があるのでエレベーターの設置が必要ではないか。

(座長)

- ・駅へのエレベーター設置については、過去は1日3千人以上の利用が無いとダメであったが、国土交通大臣が観光地や近くに病院があれば基準を満たしていなくても問題ないと発言している。現状は、JRの線区問題があり、議論が進んでいない。

(委員)

- ・障がいを持っている方が、学校教育など修了後に地域で受け入れる体制づくりが必要ではないか。

(座長)

- ・共生ビジョンの進行管理及び取組状況について、一定程度の議論がおわかりました。各委員から出されました意見等については事務局で整理していただき、今後の圏域連携に役立てることでお願いしたいと思います。

## 6. その他

(事務局)

- ・委員任期は、平成31年3月31日までとなっておりますので、来年度も引き続きご協力をお願いします。
- ・現共生ビジョンは平成30年度までとなっておりますので、来年度は共生ビジョン全体の見直し作業がありますので併せてお願いします。
- ・今回の共生ビジョン懇談会の意見等は、圏域首長が集まる会議にて報告させていただきます。

## 7. 閉 会

(西野企画振興課長)